

知識の花弁

三田メディアセンターだより

No.6
2015秋



撮影者：新 良太

展示でみる 三田メディアセンターの蔵書

知って良かった ツール&サービス
自宅からでも使える! 便利な図書館サービス

コレクションの広場
星文庫

図書館の舞台ウラ
図書館が相互に協力!

貴重書紹介
『百二十詠詩注』

所長挨拶

スタッフレポート
OCLC Research Workshop

主な出来事 (2015.4-2015.9)



慶應義塾図書館

COLLECTION

① グーテンベルク聖書

➡ 「グーテンベルク聖書 一世界初の印刷聖書」

C-1 グーテンベルク印行『42行聖書』

上巻1冊 1455年頃 マインツ 紙

グーテンベルク聖書は1455年頃にドイツ・マインツでヨハネス・グーテンベルクが活版印刷技術を用いて印刷した初の聖書です。アジアで唯一、慶應義塾図書館が上巻のみ所蔵しています。2012年4月、慶應義塾図書館開館100年記念式典に合わせて展示されました。



C-1

② 西洋の写本・絵入り本

➡ 「信仰と学問 一西洋中世写本の世界」 「絵入り本の東西」 など3回

C-2 時禱書 零葉 (Gentあるいはブルージュ、1510-20年頃)

ローマ式典礼の時禱書の一部で、聖母マリアの時禱の六時課の冒頭の一葉です。モチーフが地に影を落とすように描かれる騙し絵 (トロンブルイユ) 的な装飾技法は、15世紀後半から16世紀初頭のフランダースの細密画の特徴で、この零葉の小鳥、花、苺、蝶などがあしらわれた装飾枠は、16世紀初頭の Gent やブルージュの工房で描かれたと推測されます。

C-2



③ アインシュタイン文書

➡ 「アインシュタインの見た日本 一三宅速との絆を通して」

C-3 アインシュタイン自筆草稿 (『私の日本旅行雑感』) 8枚

アインシュタインが雑誌「改造」1923年1月号に寄稿した「日本に於ける私の印象 (Plauderei über meine Eindrücke in Japan)」と題する日本滞在中の感想記の草稿です。日本への船旅中に体調を崩したアインシュタインを診察し、それをきっかけに交流をもった九州帝国大学医学部教授三宅速に対して、アインシュタインから感謝の印として贈られたものです。



C-3

④ 奈良絵本コレクション

➡ 「奈良絵本・絵巻にみる昔話の世界」 「絵入り本の東西」 など3回

C-4 『酒呑童子』 絵巻 [江戸時代前期] 写 3軸

御伽草子として最も有名な物語の一つです。酒呑童子を討つ源頼光の家来には、三田で誕生したとされる渡辺綱や、足柄山の金太郎で著名な坂田金時等がいます。三田界隈の綱坂や綱の手引坂は、大学を囲む道として今日も親しまれています。奈良絵本は室町末期から江戸前期にかけて作られた絵入りの写本で、挿絵に朱、緑など鮮やかな色彩と金銀箔・泥がほどこされています。



C-4

⑤ 魚菜文庫

➡ 「日本の食文化 一魚菜文庫を中心に」

C-5 『中原忠兼料理式伝書』 [江戸前期] 写 1巻

室町中期、文明12年 (1480) に書かれた資料の写しです。四条流の系譜をひく料理関係の伝書と思われ、各種料理献立や盛様の作法が丁寧な図説で描かれています。魚菜文庫は料理研究家田村魚菜 (1914-1991) の旧蔵資料です。

2011年10月に新館1階に展示室を開設して以来、公開してきました。約4年間の企画展示は、大きくわかります。今回は、過去に展示された資料から



C-5

⑥ 庄内関係資料

➡ 「慶應義塾図書館所蔵庄内史料展 I 庄内藩と城下町鶴岡」 など2回

C-6 『泥沍院様御上洛行列図』 1軸

泥沍院 (ないおんいん) は庄内藩主酒井家6代酒井忠真のことです。忠真は享保10年 (1725) 5月、8代将軍徳川吉宗の嫡子家重が元服した際、将軍の名代として800余人の行列にて京にのぼりました。大正から昭和初期にかけて、慶應義塾図書館には初代監督 (館長) 田中一貞をはじめとして、多くの庄内出身者がいたこともあり、庄内関係資料がたくさん収蔵されました。

C-6

⑦ 三田文学ライブラリー

➡ 「三田文学ライブラリー 一永井荷風の初版本を中心に」 「三田文学ライブラリー 探偵小説、推理小説の系譜」 「没後50年記念 佐藤春夫」 など5回

C-7 『ドグラ・マグラ：幻魔怪奇探偵小説』

夢野久作著 東京：松柏館書店、1935

「読了した者は精神に異常を来す」との言で名高い本書は、日本探偵小説三大奇書の一つとされます。異常な物語を象徴する女性の顔が印象的な写真の『ドグラ・マグラ』は三田文学ライブラリー (MBL) に収められた1冊。MBLは慶應義塾ゆかりの文人著作の初版や自筆原稿などを集めたコレクションで、ラベル貼付や修理を一切行わずに元の装丁をそのまま保存しています。



C-7

「コレクション型」

さまざまなコレクション資料を
中心に据えた企画展示です。

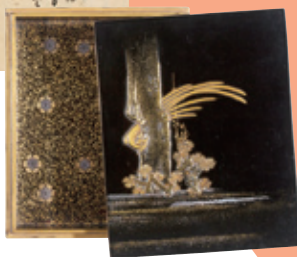
展示 三田メディアセ

「テーマ型」

特定のテーマに関する展示資料を、
広く蔵書全体から選定した企画展示です。



T-1



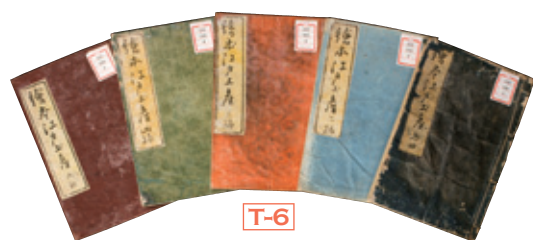
T-2



T-3



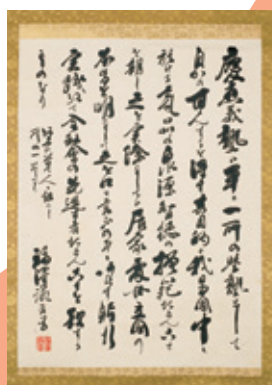
T-4



T-6



T-5



T-7

① 本の歴史

➡「本の歴史：和・漢・洋の貴重書から」展を2回

T-1 『古今和歌集』

伝 勾当内侍基綱女[姉小路濟子]筆[室町後期]写 1帖 (永禄5年三条西公条奥書)
日本最古の勅撰和歌集。本書は室町後期の写本、袖珍本(しゅうちんぼん)と呼ばれる小型本で、桑茶地金襴の表紙、松に尾長鳥の金銀蒔絵の黒漆塗箱に収められています。その美しさから公家や大名の所蔵であったものと推察されています。

T-2 『妙法蓮華経』8巻 存巻1 序品 姚秦 鳩摩羅什訳[鎌倉]刊 1軸

古代インドの『法華経』は何度も漢訳され、特に中国西域国・クチャ(亀茲)の王族出身の僧、鳩摩羅什(クマラジーヴァ)による訳は「妙法蓮華」と称されています。日本では飛鳥時代から学ばれ、平安初期に伝教大師最澄が天台宗を伝えて以降『法華経』の研究と經典そのものへの信仰が強まりました。本資料は文字様式から奈良興福寺の出版物「春日版」と見られます。

T-3 ヘブル語聖書トーラー写本 19世紀後半、ハラ製作

鹿皮紙に記されたヘブル語聖書トーラー(旧約聖書の最初の五つの書)写本とケースです。「書物の宗教」と云われるユダヤ教では、記されたことを遵守する為に聖書研究が発達し、膨大な戒律が形成されてきました。トーラー写本はその基礎として神聖視され、資格を持った書字生(ソフエリム)が厳格な規則に従って書き写すことが決められていました。

② 『三色旗』表紙シリーズ

(通信教育課程夏期スクーリング時期に開催)

➡『三色旗』表紙シリーズ企画「本の歴史 part 1」

T-4 エジプト象形文字による『死者の書』

紀元前600年頃 木製

「死者の書」とは古代エジプト新王国時代(紀元前16世紀半ば~前11世紀後半)以降、棺の中のミイラとともに副葬された宗教文書の総称です。挿絵とヒエログリフ(象形文字)で構成され、内容は死者の復活に必要な呪文や誓約文などです。古代エジプト人の宗教観・世界観を知る上で貴重な資料で、最古の「絵入り本」とも言われています。

③ 福澤諭吉関係

➡「福澤諭吉：世界に目をむけた教育者」「慶應義塾のビブリオテーキ 一福澤諭吉と田中一貞一」など3回

T-5 「慶應義塾之目的」 書幅 明治29(1896) 1幅

明治29年(1896)11月1日、芝紅葉館で行われた慶應義塾旧友会(三田に移転する前に義塾に学んだ者の同窓会)席上で、福澤が行った演説の一節を改めて書き残したのがこの書です。義塾出身者のあるべき姿を示した「気品の泉源、智徳の模範」の語は、今なお慶應義塾のモットーのひとつとして尊重されています。

④ 江戸時代の経済

➡「大江戸経済事情」

T-6 『繪本江戸土産(外題)』

10編 欠巻10 松亭金水[解説] 廣重[歌川広重一世]等[画] 嘉永3序一元治1序(1850-1864)刊 7冊

宝暦3年(1753)に刊行された西村重長の『繪本江戸土産』や、鈴木春信による『繪本続江戸土産』(1768)の版本が焼失し、名所も様変わりしたことから、新たに歌川広重が挿絵を描き、松亭金水が解説を付して出版されました。江戸の名所の図が掲載されており、ガイドブックとして親しまれました。

⑤ 日本史上の重大事件

➡「忠臣蔵」

T-7 『夕雲雀』 2巻付録 [江戸中期]写 彩色絵入 3冊

赤穂義士による吉良邸討ち入りの顛末を記した奈良絵本です。『夕雲雀』という書名は『平家物語』等に登場する鶴退治の説話に由来するもので、赤穂義士の名を高める目的を持った作品であったことがうかがえます。

展示会情報

第27回 慶應義塾図書館貴重書展示会
「活字文化の真髄—日本の古活字版と西洋初期印刷本—」

会期：2015年10月7日(水)~10月13日(火)
9:00~21:00(最終日は16:00閉場)

会場：丸善・丸の内本店4階ギャラリー 入場無料
主催：慶應義塾図書館 協賛：丸善株式会社
協力：ミズノプリンティングミュージアム

自宅からでも使える! 便利な図書館サービス

図書館のサービスは、図書館に足を運ばないと受けることができない…そう思っていませんか? じつは図書館では、来館しなくても利用できる様々なサービスや、Web上で閲覧できる図書・雑誌などのたくさんの資料を提供しているのです。ここでは、自宅からでも使える便利な図書館サービスやツールについて、簡単にご紹介します。

様々な手続きがWeb上で! 「MyLibrary」を使おう

KOSMOSを開くと画面右上に表示されている「MyLibrary」。このMyLibraryにログインすると、様々な手続きをWeb上で行うことができます。

他キャンパスからの図書取寄せリクエスト

読みたい本が他キャンパスにしかない場合は、三田メディアセンターに取り寄せることができます。KOSMOSの検索結果で「全ての所蔵」をクリックすると所蔵一覧画面が開くので、取り寄せたい本の横に表示された「リクエスト」をクリックし、受取地区を「三田」に指定します。本が三田メディアセンターに届いたら、メールでお知らせします。

★所蔵地区が「白楽」の資料取寄せ

白楽サテライトライブラリーの閉鎖により、所蔵地区が「白楽」と表示されている資料は、資料の移動が完了する2016年3月末まで利用できなくなりました。これに伴い「リクエスト」が表示されなくなりますが、同じ資料を利用したい場合は、早稲田大学を含む他機関からの資料取寄せなどの代替サービスをご案内しますので、図書館1階レファレンスカウンターまでご相談ください。



予約

読みたい本が貸出中のときは、予約をかけることができます。手続きは他キャンパスからの取寄せリクエストと同じです。本が借りられる状態になったらメールでお知らせが届きます。

更新

現在借りている本の返却期限の更新(延長)ができます。学部生・院生は2回まで、教職員は回数制限なく更新が可能です。ただし、更新時に返却期限内で、予約がない場合に限られます。

KOSMOSの画面右上「MyLibrary」をクリックし、利用状況から貸出一覧を表示し、更新したい資料にチェックを入れて更新してください。

自宅から図書館の資料にアクセス! 電子リソースを使おう


学生・教職員の方であれば、「電子ジャーナル」、「電子ブック」、新聞や雑誌記事、辞書・事典が検索できる「データベース」といった各種電子リソースの多くを学外から利用することができます。ただし、利用許諾契約により学外から利用できない電子リソースも一部あります。

電子ジャーナル・電子ブック

KOSMOSで「電子ジャーナル」や「電子ブック」がヒットしたら、「オンラインアクセス」をクリックしましょう。慶應IDでログインすれば、学外からアクセス可能です。



データベース

図書館のWebサイトから「データベースナビ」をクリックして慶應IDでログインしましょう。リモートアクセス可のアイコンが付いているデータベースは、学外からアクセス可能です。

データベースナビ <https://auth.lib.keio.ac.jp/db/>



いつでもどこでも図書館のサービスが使えるれば、何度も図書館に足を運ばなくてもよいので、効率的に学習や研究が進められて大変便利です。ぜひ、これらの便利なサービスを活用してみてください。

コレクションの広場

星文庫

「星文庫」は第4次伊藤内閣通信相を務め、立憲政友会設立に参加した政治家・星亨（1850-1901）の旧蔵書コレクションです。1906年（明治39年）遺族より慶應義塾に寄託され、8年間の保管契約年限が切れたのち、1913年（大正2年）に正式に寄贈されました。約13,000冊という蔵書数は、当時の図書館蔵書に匹敵する数で、星文庫の保存決定は、図書館の充実躍進に大きく貢献したようです。コレクションの内容は、江戸から明治にかけての和漢書の古典と、政治、経済、法律、文学、歴史、地理関係の和漢書・洋書・中国書と多岐にわたっています。

江戸の左官職人の家に生まれた星は、12歳にして幕府直営の英学所に学び、幕府開成所の英語世話役などを経て英国留学、日本人初の法廷弁護士資格

を取得しました。帰国後は司法省代言人、衆議院議長、通信大臣などとして活躍しましたが、東京市議会議長となった1901年に暗殺され、51歳で生涯を閉じました。星はその強引な政治手腕により、政敵からは星亨をもじって「押し通る」という異名を付けられていましたが、一方で私生活では熱心な読書家でした。元々洋学者だった星は、政界で波乱の活動期に入っても、寸暇を惜しんで本を読んだといひます。蓄財はなく、遺産はこの蔵書のみでした。津奈子夫人は、遺蔵書を夫が最後に尽力した東京市に寄付しようとしたが叶わず、ご子息星光が義塾に学んだ縁から、慶應義塾に寄託されることになりました。

星文庫の資料リストは「星文庫和漢書目録」「Catalogue of the Hoshi Library（星文庫洋書目録）」で確認することができます。現在、KOSMOSからも検索できるように、目録データの作成も進行中です。

コレクションの中には、書籍とともに寄贈された硯、墨、文鎮、手紙などの遺品も含まれています。（この内、書簡・書類は国立国会図書館に寄託されました。）政界の大物として派手な印象の強い星ですが、その遺品からは真面目で大変な勉強家であった彼の本当の姿を感じることができます。

（吉井由希子）



図書館の舞台ウラ

図書館が相互に協力!



図書館1階メインカウンターの右端にILLカウンターがあります。レファレンスカウンターに「こんな資料を探しているのですが」と相談した図書や複写物など、三田以外から到着したものをお渡しするところですよ。

ILLとはInter Library Loanの略で、担当部署は、相互貸借担当、相互協力担当とも呼ばれます。各大学の図書館は規模や分野が様々なので、利用者が必要とする図書や雑誌すべてを用意することはできません。

自館に所蔵していない資料は、学外の図書館に依頼すると、所蔵館の利用に支障がない範囲で、図書の貸出や複写物送付にに応じていただけます。図書館同士がお互いに助け合ってサービスをしているわけです。

慶應から他の図書館へ依頼するだけではなく、学外からの申込みも受け付けています。2014年度の学外への依頼は2,572件、学外からの受付は3,182件でした。図書館間のやりとりは国内に留まりません。1割近くは海外とのやりとりで、海の向こうから、はるばる図書や複写物がやってきます。

学外からの貸出図書や複写物は、通常、郵送で届きます。簡易書留扱いなどにしますので往復の料金は国内で1,000円から2,000円程度かかりますが、所蔵館まで行って利用することに比べれば貸していただくだけで大変ありがたいことです。他館の大切な蔵書

ですので、利用は館内のみとし、破損や汚損がないよう丁寧に扱うようお願いしています。

取寄せの申込みは、カウンターの他にオンラインフォームでも受付しています。他館へ依頼する前に所蔵状況を確認しますが、申込み件数の中で2割前後は、学外への依頼が不要なものが含まれます。三田での所蔵や電子ジャーナルの他に、最近ではインターネットで公開された資料の利用をお知らせすることも増えています。文学作品などじっくり読みたいという図書の場合は、近隣の公共図書館の利用をご案内することもあります。

（相互協力担当）



貴重な幼学書

『百二十詠詩注』2巻

唐李嶠 撰 唐張庭芳 注 足利学校 室町後期写 24.4×17.7cm. 合綴 1冊 [132X@32/6@2]

佐藤 道生 (文学部教授)

読者の皆さんは「幼学書」という言葉を御存じだろうか。読んで字の如く、幼年期十歳頃に学習する書籍の意で、日本では平安時代以来、『千字文』『蒙求』『百二十詠』『和漢朗詠集』の四種が主要な幼学書であった。但し、『千字文』『蒙求』『和漢朗詠集』の三書が近代に至るまで幼学書であり続けたのに対して、『百二十詠』だけは室町時代を境として全く読まれなくなってしまった。そのことは、前三書の伝本(写本・刊本を問わず)が数え切れない程たくさん現存しているのに比べて、『百二十詠』の現存本はわずか十数点に過ぎないことに端的に現れている。

『百二十詠』は唐の李嶠による詠物詩百二十首を収める漢詩集である。無注本と有注本とがあり、中でも稀覯に属するのは有注本、すなわち唐の張庭芳が注釈を加えたものである。ここに紹介する慶應義塾図書館蔵『百二十詠詩注』は、その首尾完結した姿を伝える現存唯一の古写本である。

『百二十詠』では、百二十の事物を乾象・坤儀・芳草・嘉樹・靈禽・祥獸・居処・服斲・文物・武器・音楽・玉帛の十二部門に分ち、一事物につき五言律詩一首が詠まれている。詠作の対象となった事物(詩題)は、乾象部を例に取れば、日・月・星・風・雲・烟・露・霧・雨・雪である。こうした身近にある事物に関する知識を詩に詠み込んだ書が『百二十詠』なのである。試みに「松」詩を取り上げて読んでみよう。

鬱々高山表、森々幽澗陲。鶴栖君子樹、風払大夫枝。百尺條陰合、千年蓋影披。年寒終不改、勁節幸君知。

(鬱々たり高山の表、森々たり幽澗の陲。鶴は君子の樹に栖む、風は大夫の枝を払ふ。百尺にして條の陰合す、千年にして蓋の影披く。年寒くして終に改めず、勁節君に知られむことを幸ふ。)

ここには松が①高山の頂に生い茂り、②深い谷間にひっそりと立っている。③君子樹と呼ばれて鶴の住処となり、④五大夫とも呼ばれ、枝を鳴らす風(松風)の音が趣深い。⑤枝は百尺に届くほど高く、⑥樹齡は千年に及ぶ。⑦冬になっても枯れず、⑧節操の堅さに喩えられる、といったその特質が詠み込まれている。

幼学書の学習には、声に出して繰り返し読み(理解を二の次にして)丸暗記するという方法が取られる。現代の掛け算九九の修得方法と同じで、いったん

暗誦できるようになれば、生涯忘れることが無い。幼年期の学習の第一段階では『千字文』を学ぶ。これを学べば、読み書きに必要な漢字千文字の音と訓とを全て修得できるという利点がある。幼学書は社会生活を営む上で、極めて実用的な知識を与えてくれる書なのである。それでは、『百二十詠』は何を修得するために学んだのか。この書を暗誦することによって、どのような利益を得ることができたのだろうか。

『百二十詠』の学習は、詩歌の作成と深い関わりがある。平安・鎌倉期の知識人(貴族・僧侶・武士)が社交の場として最も重視したのは詩会である。彼らに教養として求められたのは、漢詩をそつなく作ることであった。当時、漢詩は与えられた詩題によって詠むことが一般的で、詩題は例外なく二つの事物を組み合わせたものだった。例えば、寛治四年(1090)四月二十日、堀河天皇は行幸した鳥羽殿で詩会を開いたが、その時出されたのは「松樹臨池水(松樹 池水に臨む)」、「松」と「池」とを組み合わせた詩題であった。この二つの事物はともに『百二十詠』に見える。察しのよい方は、私が何を言いたいのか、お分かりだろう。詩題に含まれる二つの事物は『百二十詠』に収める事物の何れかに一致するから、詩人がその事物を詩に詠む時には、『百二十詠』の詩句の表現を大いに参考にできるのである。『百二十詠』はテーマ別の語彙集成とでも言うべきものであり、人々はこれを幼少期に修得し、将来(元服後に)参加するであろう詩会に備えたのである。

上の「松樹臨池水」詩会で詠まれた作品を見ると、「一千年露滴舷色、五大夫風払岸声(一千年の露 舷に滴る色、五大夫の風 岸を払ふ声)」「(源経信)」、「風枝払岸鶴眠驚(風枝岸を払へば鶴の眠り驚く)」「(源師頼)」、「一千年色浮潭面、数百尺陰入浪声(一千年の色は潭の面に浮かぶ、数百尺の陰は浪の声に入る)」「(藤原宗忠)などの下線部は、詩題の「松樹」を表現した部分であり、『百二十詠』の「松」詩を踏まえたことが明らかである。見よ、ここに幼少期に修得した知識が見事に花開いているではないか。『百二十詠』学習の目的がお分かりいただけたことと思う。

尚、『百二十詠』とその注釈書『百二十詠詩注』はどちらも唐代に作られた書だが、本国の中国には現存しない。このように中国では亡佚し、日本などの他国に現存する書籍を「佚存書」と呼ぶ。慶應義塾図書館はこの類の書を多く所蔵しており、佚存書の宝庫と言っても言い過ぎではない。



松「詩」の部分(第22張オモテ・ウラ)



巻頭(第1張オモテ・ウラ)




 所長挨拶


赤木 完爾 (法学部教授)

今年4月から田村俊作教授の後任としてメディアセンター所長に就任しました。その前は2009年から三田ITC所長、2011年からはITC本部所長として6年にわたって携わってきました。電気や水道と同じように、今や社会的インフラとなった情報システム基盤の全塾における構築・維持・強化という、一般の塾生の皆さんにとってはほとんど意識されないであろう領域の仕事でした。

これまで本務の研究と教育以外では、塾内では図書館とITC、塾外では文書館や博物館の活動とかかわることが多く、なかでもわが国で初めての本格的なデジタルアーカイブである国立公文書館アジア歴史資料センターには、

その設立準備室が内閣官房にあった時代からほぼ20年にわたってかかわって来たところです。

こうした経験を通じて得た知見が、図書館の業務にどれだけ生かせるかはまだ分かりません。しかしながら、今や図書館が、紙の書籍や雑誌にとどまらず、デジタル化された学術情報の入り口となっている現状を考えると、大学における学問的生活において、どのような形で紙と電子資源をバランスさせてゆくことが最善であるのかを模索することは、これからの大学図書館にとって大変重要な課題の一つであると感じています。

ところで、所長に就任して程なく、欧米の大学図書館長が集まるセミナーに出席する機会があり、久しぶりにカリフォルニア大学パークレー校の図書館にも出向きました。数ある閲覧室のうちには、専ら楽しみのための読書の目的に供される部屋があることに、改めて感心した次第です。詩の朗読会や音楽鑑賞なども行われるということでした。

大学図書館は、来館して調べ物をしたり、レポートの材料を探したり、勉強したりする場所であることは言うまでもありませんが、さらに書架の間を逍遙して思わぬ発見を楽しむとか、日がな一日趣味の本を読むといった使い方もあります。皆さんの三田での学生生活をさらに知的で豊かなものにする、そうした場でもあり続けたいと念じています。


 スタッフレポート

OCLC Research Workshop: Evolving Scholarly Record and Evolving Stewardship Ecosystem

2015年6月2日 San Francisco, California (USA)

木下 和彦 (課長)

OCLC (Online Computer Library Center, Inc.) はアメリカ合衆国のNPOで、世界各国の大学や研究機関に、主に図書館向けのさまざまなITサービスを提供している機関です。OCLC ResearchはそのOCLCのR&D (研究開発) 部門で、図書館やアーカイブ (文書館) が直面する課題を扱い、それに立ち向かうための情報提供や提言を行っています。今回参加したワークショップも、タイトルに“Evolving Scholarly Record (進化する研究レコード)”とある通り、新しいIT動向から図書館の将来を考えていこうとするものでした。

従来、研究情報といえば、研究論文や学術書 (図書) が中心でしたが、最近では多種多様なものが研究情報として扱われるようになってきている現実があります。例えばデータセット。昔はデータを自分で集めることも研究のうちでしたが、現在は既存のデータセットを使って研究をすることも普通になりつつあります。そうなってくると、自分の研究に必要なデータセットをどこから持ってくるができること、効率よく研究をすすめることができるようになります^(※1)。また、かつては学会での研究発表などは入手が難しいものの代表でしたが、現在ではfigshare^(※2)のように、研究発表に用いたプレゼンテーションやポスターを共有するサービスがあります。

大学図書館に代表される学術図書館は、研究情報を集めて自分の組織の

研究者にそれを提供することが主要な仕事の一つですが、このような新世代の研究情報をどのように取り扱えばよいかというノウハウはありませんし、先にあげた事例以外にもどのような新しい形態の研究情報があるかということもまだ全体像は見えていません。今回のWorkshopも参加者が相互に議論をして将来像を模索していくもので、結論には至っていませんが、このような新しい動向にも気を配る必要があるのだということ気づかせてくれるよい機会となりました。



サンフランシスコの街並み

*1 すでにデータセットを集めて検索できるようにしているサービスがあります。その一例として Dryad <http://datadryad.org/> などがあります。

*2 figshare <http://figshare.com/>

主な出来事 (2015.4-2015.9)

日・EUフレンドシップウィーク「EUの品質認証制度」を開催

三田メディアセンターに設置されているEU情報センターでは、毎年5月9日のヨーロッパデー（欧州連合の誕生日）を中心に、展示やEUクイズを中心としたイベント「日・EUフレンドシップウィーク」を開催しています。

2015年のテーマは、「EUの品質認証制度～本物のおいしさ～」でした。5月25日から6月13日の3週間にわたり、新館2階にてパネル展示を行いました。今回の展示は、EUの食の安全を保障する3つの制度と4つのマークを実際の食品を例に用いて紹介しました。

また、パネル展示と並行して、EU限定ハローキティストラップなどのオリジナルグッズがもらえるEUクイズも行い、今年は96名の方に参加していただきました。今回の展示を通して、EU諸国の「伝統的な「おいしい」食品を守り、それを支える農業を維持・発展させる」ための取り組みについて理解を深めていただけたのではないのでしょうか。



3階カウンター周辺をリニューアルしました

3階カウンター付近の木製衝立を撤去し、カウンター前の通路に並んでいた10台のパソコンを用途別に整理しました。ログイン端末8台はカウンター後方に設置しましたので、落ち着いてデータベースや電子ジャーナルをご利用いただけるようになりました。また、雑誌の付録CD-ROMを自由に閲覧できるようにカウンター前の端末と共に並べています。

さらに、新聞のバックナンバーを自由に閲覧できるようにし、専用の閲覧機を設置しました。ご希望の新聞が見つからない場合は3階カウンターへお問い合わせください。

・・・お知らせ・・・

アンケートにお応えして...
「日曜開館」実施します!

昨年度、三田メディアセンターでは3回のアンケートを行い、学生のみなさんの図書館への要望をお聞きしました。館内のアンケートボードに最も書き込みが多かったのは「日曜開館」の要望でした。日曜開館は、経費の問題から近年実施を見合わせていましたが、これをきっかけに再考し、今年度は11月～12月の日曜日と祝日のうちの7日間を試行的に開館することになりました。11月には館内でアンケートを行い、日曜開館の感想やご意見を再度お尋ねしようと考えていますので、ぜひご協力ください。

白楽サテライトライブラリーの
資料について

山中資料センターへの資料移動に伴い、2015年10月1日から2016年3月31日まで、資料の利用が出来なくなりました。お困り際には、レファレンスカウンターにご相談ください。

資料の利用につきまして、スケジュール等、今後変更になる可能性もあります。

資料移動に関する情報は、随時更新してまいりますので、三田メディアセンターのウェブページをご確認ください。

➡ <http://www.mita.lib.keio.ac.jp/guide/yamanaka.html>

秋は、「スポーツの秋」「読書の秋」などの言葉があるように、何かを行うのに良い季節ですが、何かを振り返るのにも良い季節だとも思います。そんな今回の「知識の花弁」では、過去に三田メディアセンターが行ってきた展示を

ダイジェストという形で簡単に紹介しました。過去を振り返ってばかりではありません。三田メディアセンターは常に新しく変化しています。Twitterで新着図書やホットなニュースを随時更新しています。ぜひ見に来てください。